

## 第 7 回 北東アジア OSS 推進フォーラム 議長声明草案(仮訳)

2004 年 4 月 3 日北京において日本・中国・韓国の IT 担当局長が署名したメモランダムと、同時開催された第 1 回北東アジア OSS 推進フォーラムの成果を受けて、日中韓各国でオープンソース・ソフトウェア(OSS)を推進する代表者は、日中韓の OSS 推進の状況を確認し、日中韓の今後の協力に関する共通認識を得て、2004 年 7 月 28 日開催の第 2 回札幌会合においてワーキンググループ(WG)を設置し、共同で運営することに合意した。2004 年 12 月 3 日開催の第 3 回ソウル会合においては、次の 3WG が設立され、活動を開始した。

WG1: 技術開発・評価

WG2: 人材育成

WG3: 標準化・認証研究

2006 年 4 月 14 日開催の第 4 回天津会合において、WG が細分化され、全ての方向性が具体的に示された。2006 年 11 月 22 日開催の第 5 回福岡会合において、以下の具体的なプロジェクトが立ち上げられた。

WG1: 技術開発・評価

－SSWG(サーバ・サブ WG)

プロジェクト: OpenDRIM(サーバリソース管理ツール), Crackerjack(Linux カーネル互換性テストツール), DBT-1(DBMS の性能評価)

タスクフォース: SEEN(セキュリティ・エンティティに基づくアクセス制御モデル)

－DSWG(デスクトップ・サブ WG)

タスクフォース: OSS デスクトップ Linux 導入促進ロードマップ  
デスクトップ Linux の参照プラットフォーム  
専用端末向け Linux デスクトップ調査

WG2: 人材育成

－プロジェクト: OSS 人材育成の現状調査

WG3: 標準化・認証研究

－SWG1(入力メソッドエンジン・インターフェース)

－SWG2(ウェブ(WWW)の相互運用性)

2007 年 9 月 12 日開催の第 6 回ソウル会合において、WG1 は「OpenDRIM 2007 Suite」を公開した。Crackerjack プロジェクトは、133 のシステムコール・テスト機能を持つ「Linux カーネル互換性テストツール第 1.0 版」を公開し、オープンソース・コミュニティに貢献した。「DBMS 性能評価の標準試験方法及び試験結果」が 2007 年 4 月に公開された。なお、デスクトップ・サブ WG とサーバ・サブ WG はこの会合で統合された。

WG2 は「OSS 人材育成シンポジウム」を開催した。また、WG2 は「OSS 特別貢献者賞」を第 7 回フォーラムから創設することを提案した。

WG3 は「入力メソッドエンジン・サービス・プロバイダ・インターフェース仕様書」のドラフト第 2 版及び「ウェブの相互運用性の問題に関する報告書(WG3 TR00003)」を公開した。

第 6 回会合で示されたように、日中韓の各国は WG1、WG2 及び WG3 のうち一つで、コーディネータの役割を引き受け、コーディネータは毎回のフォーラムで、交代することとされた。第 7 回北東アジア OSS 推進フォーラムにおいて、韓国は WG1、中国は WG2、日本は WG3 のコーディネータを引き受けた。

2008 年 10 月 31 日開催の第 7 回無錫会合において、フォーラムは成果を評価し、今後の WG 活動を支持した。

1. フォーラムは日中韓の協力関係とその精神は、フォーラム開始以来、着実に強化されてきており、価値のある成果が実現されていることを認識した。
2. フォーラムは、2008 年 10 月 30 日にオープンソースソフトウェアを推進するために無錫で開催された第 7 回日中韓 IT 担当局長会議における結論を踏まえて、活動する。また、詳細な協議に基づき、日中韓は協力して、OSS 開発のためのキーとなる共通課題の研究と解決に取り組む。
3. 3つの WG の成果概要は、次の通りである。

WG1:

OpenDRIM プロジェクトは、2008 年 12 月に「OpenDRIM 2008 Suite」をリリースする。本プロジェクトは、市場ニーズに対応して、オープンな標準に基づく新機能の開発と「OpenDRIM 2009 Suite」への統合を継続し、2009 年開催の次回フォーラムまでにリリースする。

Crackerjack プロジェクトは、2008 年 4 月に 273 のシステムコール・テスト機能を持つ「Linux カーネル互換性テストツール第 2.0 版」をリリースした。本プロジェクトは、全部で 300 のシステムコール・テスト機能の開発と改良を継続し、2009 年に「Linux カーネル互換性テストツール第 3.0 版」をリリースする。特に、本プロジェクトは LTP (Linux テスト・プロジェクト)や Autotest のような世界的なテスト・コミュニティとの強固な協力を行うよう努力する。

セキュリティ・プロジェクトは、セキュア OS の監視・操作を行うための OSS セキュリティ・モジュールを開発し、2008 年 3 月に成果をリリースした。

WG1 は今後の活動方向は日中韓の協力に加えて、世界的なコミュニティへの貢献に転換していくことを確認した。

WG2:

WG2 は 2007 年 12 月に「北東アジア OSS 人材育成に関する報告書(ドラフト第 1.0 版)」を策定し、2008 年 10 月に報告書第 1 版として公表した。WG2 は OSS 関連スキルセット及びスキルレベルを含む分析成果の改善を継続する。

WG2 は本会合において、「北東アジアOSS人材育成に関するモデルカリキュラム(ドラフト第 1.0 版)」を策定し、パブリック・コメントを募集するために公表することに合意した。WG2 は日中韓のカリキュラム改良及びOSS専門家の相互認定スキームについて、議論を継続する。WG2はフォーラム又はWG2の名称で公表する文書について、全員一致の決定プロセスを採用する。

WG2 は本会合において、OSS 教科書の出版を奨励する最初のステップとして、OSS 教科書の展示会を開催した。

WG2 は技術、コミュニティ、戦略分野における OSS 人材開発を促進するために、「日中韓 OSS 賞」と「日中韓 OSS 特別貢献賞」の授与を継続することを合意した。

WG3:

WG3 は「入力メソッドエンジン・サービス・プロバイダ・インターフェース仕様書」(以下、IME-SPI 仕様書)(WG3 WR00001)を完成し、これを承認した。IME-SPI 仕様書は、中国語、日本語、韓国語を含む複数の言語を処理するための共通入力メソッド枠組みの開発者にとって、有益であることが期待されている。

WG3 は 2007 年に「ウェブの相互運用性の問題に関する報告書(WG3 TR00003)」を公表した。また、WG3 は「ウェブの相互運用性問題の解決策に関する報告書(WG3 TR00004)」を完成した。

WG3 は世界のコミュニティに情報提供を行うために、「北東アジア OSS 推進フォーラム・ウェブページ」から WG3 WR00001 および WG3 TR 00004 を公開する。

WG3 は北東アジア各国の共通的な関心事項を探索することを目的として、今後の WG3 活動を検討するタスクフォースを設置し、共通関心事項、プロジェクトの提案等を行う。タスクフォースは活動成果として、報告書を提供する。

フォーラムは3つのWGの活動の奨励と強化を継続する。

第7回北東アジア OSS 推進フォーラムは、第8回会合に向けて、中国はWG1、日本はWG2、韓国はWG3の各コーディネータを引き受けることを決定した。

第 7 回日中韓 IT 担当局長会議の精神を踏まえて、日中韓はクラウド・コンピューティング、モバイル OSS 技術、仮想化技術およびグリーン IT を研究し、情報を共有するとともに、深く相互運用性を発展させることを継続して、日中韓におけるコミュニケーションと協力の土台の役割を担ってゆく。

第 8 回北東アジア OSS 推進フォーラムは、日本の東京で開催する。日程に関しては、中国、韓国と協議して、日本が決定する。

中国無錫にて

Prof. LU, Shouqun

主席

中国 OSS 推進連盟